

令和7年度

全国学力・学習状況調査、丹波篠山市学力・生活習慣状況調査より

丹波篠山市立八上小学校

全国公立の中学校3年生及び小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査（全国調査）、5年生を対象に実施された丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（市調査）の結果を分析しました。

テストの結果だけで学力を測定することはできないことも事実ですが、この結果を授業や学校生活の工夫改善、家庭学習の充実につなげていきたいと考えております。保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

### （１）【算数】

6年生では、「図形」「測定」の領域で全国平均並みの結果が見られました。一方で、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域においては課題が見られました。特に、問題文とグラフや表を関連付けて読み取ることや、注目すべき情報を選択することが難しかったようです。たとえば、 $0.4 + 0.05$ のような計算で、「0.4は何の40個分か」「0.05は何の5個分か」といった問いに答えられた児童は半数にとどまりました。また、「10%増量」といった表現を小数倍で捉えることや、割合・小数・大きな数の感覚的理解の定着が課題だと分かりました。

今後は、社会科や理科などの他教科でも表やグラフを文章と関連付けて読み、思考する場面を意識的に設け、日常的に複数の情報を関連付けて読み解く力を育成していきます。また、調べ学習などで自分がまとめたデータを表やグラフにし、その意味を説明する文章を書く学習も取り入れていきます。さらに、数の位の関係や割合についての基本的な理解を定着させるために、日々の学習の中での復習や活用を重視していきます。

5年生では、全体的に全国平均を下回る結果となりました。特に「図形（角の大きさ）」の領域で課題が見られました。また、1をいくつに分けた1つ分か（分数の概念的理解）を判断する力や、帯分数・仮分数の変換といった基礎的な理解にも課題が見られました。長文の問題文に対して、必要な情報を読み取ることに時間を要し、設問にたどり着けないケースもありました。

今後は、数直線や分数の意味に関する復習・反復練習を行い、帯分数と仮分数の変換の練習も継続して行っていきます。また、複数の資料や文章から必要な情報を的確に読み取る力を育てるため、他教科と関連付けながら、大切な情報を見極める力を養うための活動もより充実させていきます。

### （２）【国語】

6年生では、「情報の扱い方に関する事項」で良好な結果が見られました。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」においては、全国平均並みの成果が出ています。一方で、「書くこと」「読むこと」の領域においては、課題が見られました。特に、多くの情報が含まれる資料や文章の中から、必要な情報を選び出して読み取ることが難しかったようです。

今後は、文章や資料を読む前に設問を確認することや、メモを取りながら読む習慣づけを行うとともに、条件に応じた書き方や、根拠に基づいて記述する力を育てていきます。また、国語に限らず他教科においても資料を読み解く場面を取り入れ、教科横断的に力をつけていきたいと考えています。

5年生では、「話すこと」「聞くこと」「漢字を読む」といった基本的な内容では全国平均並みの成果が見られましたが、「書くこと」の領域では課題が見られました。また「修飾語」と「被修飾語」の意味や使い方にも不明確な点がありました。解答時間の配分にも課題があり、最後まで解き切れなかった児童もいたと考えられます。

今後は、「ことばの学習」に関する単元を繰り返し学習し、日頃から意識して使うことで表現力を高めていきます。あわせて、時間配分にも慣れていけるよう、段階的に課題の量を調整したり、練習問題に取り組んだりすることで時間配分を意識し、計画的に問題を解く習慣も、日々の学習の中で意識づけていきます。「書くこと」に関して、ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くのかという見通しを持つことが必要になります。書き出しや要約のポイント等、日頃の授業において繰り返し指導していきます。

### (3)【理科】

6年生の理科では、「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「地球を柱とする領域」において、全国平均並みの結果が見られました。一方で、「生命を柱とする領域」ではやや課題が見られました。

子どもたちは、実験や観察を通して得られた結果をもとに考察する場面において、どのような視点で結果を読み取り、説明すればよいか迷う様子が見られました。また、課題を自ら見つけたり、変化や関係を意識しながらデータを活用したりする力には、今後さらなる伸びが期待されます。

今後は、観察・実験の結果からの気づきをもとに、課題を発見し、それに基づいて予想を立て、説明していくという一連の科学的な思考の流れを意識しながら学習に取り組むことができるよう指導していきます。また、「何がどのように変化し、それに伴ってどんな関係が生まれるのか」という視点で捉え、グラフや表などのデータからそれらを読み取り活用する力を育てていきたいと考えています。

子どもたちの学びの地図である学習指導要領(10年に一度改定)には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性など」の3つの力をバランスよく育むことが理念としてあげられています。激しく変わりゆく時代、その変化に合わせて学校に求められる学びも変わってきています。また、今の子どもたちが大人になる頃、求められる人材も今とはちがったものになっていることが予想されます。これからの時代を見据え、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点から「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」ということを重視して、生きる力を育むことをめざしています。本校では、学校教育目標に「自ら考える児童の育成」という考えを掲げています。どの教科においても、基礎基本を充実させるとともに、自分事として捉え、友だちとの関わり合いの中で学びを深めることに継続して取り組んでいきます。また、今年度も全校で取り組んでいる「学び合い」の中で、同学年・異学年の友だちとの関わり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させながら、児童が自らの学びを調整する力を育成します。さらに、気づき、疑問、ふりかえりを大切に、基礎基本の定着にも力を入れていきます。今後ともご家庭と協力しながら子どもたちの学力向上に取り組んでまいります。ご家庭でも子どもたちの学習のサポートをよろしくお願いいたします。

